

サポートツール全国キャラバン2014「教材教具研修会」in 富山

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた  
指導・支援の具体的方法

**研修会報告書**

2014年9月28日

富山市障害者福祉プラザ 多目的ホール

主催：特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催：富山県LD等発達障害及び周辺児者親の会「ゆうの会」

## 【研修会開催趣旨】

平成26年1月20日、日本は世界で140番目（EUを含めると141番目）の障害者権利条約批准国となり、「全ての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し、保護し、及び確保すること並びに障害者の固有の尊厳の尊重の促進」に向けて、新たな段階を迎えた。平成19年9月の障害者権利条約署名以来、批准に向けて障害者に関する諸制度の整備が進められてきた。

平成24年7月の中央教育審議会初等中等教育分科会報告「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」において、「障害のある子どもと無い子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである」という提言とともに、障害のある児童生徒が十分に教育を受けられるための合理的配慮の基礎となる環境整備の一つとして「教材の確保」が挙げられており、それを受けて平成25年8月28日、「障害のある児童生徒の教材の充実について 報告」が障害のある児童生徒の教材の充実に関する検討会によって取りまとめられた。障害のある児童生徒が十分な教育を受けられるようにするための合理的配慮の充実を図る上でも、基礎的環境整備の一環としての教材の確保及び合理的配慮の一環としての教材の工夫（その内容や指導方法などの変更や調整）が求められていると論じている。

全国LD親の会では、2006年度から2年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の委嘱を受け、「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせた有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を作成した。

(<http://www.jpald.net/research/index.html>)

さらに、2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組み、2013年度からは、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築を目指して、特別支援教育の推進によって蓄積されてきたノウハウの汎用化・ユニバーサルデザイン化・様々な障害の状態に応じた支援機器の充実を図った「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業に取り組んでいる。

ユニバーサルデザイン化には、一人一人のニーズを把握するパーソナル化の視点が不可欠であり、各地で研修会を開催して「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の視点」について考えていく。開催準備や開催後の連携を視野に入れて、全国LD親の会加盟の開催地域の親の会を中心に、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めていく予定であり、今年度は富山市・大分市・高知市で開催する。

## 【研修会開催要項】

日 時：2014年9月28日（日）10：00～16：30

会 場：富山市障害者福祉プラザ 多目的ホール  
富山市蜷川15番地

### プログラム

- 1、講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」  
～使い方で変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏

(特別支援教育士スーパーバイザー・自閉症スペクトラム支援士アドバンス・  
堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・堺市特別支援教育専門家チーム・  
堺市特別支援教育推進リーダー育成研修推進委員)

- 2、講演2 「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

講師 嶋谷 和之 氏

(日本感覚統合学会インストラクター・大阪市更生療育センター作業療法士・  
大阪府作業療法士会 発達部門副代表)

- 3、ワークショップ

「子どものテスト等や、ビデオによる事例検討の手法ワーク」

主 催：特定非営利活動法人全国LD親の会

共 催：富山県LD等発達障害及び周辺児者親の会「ゆうの会」

後 援：富山県教育委員会、富山市教育委員会、富山県発達障害者支援センターあり  
そ、富山県発達障害者支援センターあおぞら、北日本新聞社、一般社団法人  
日本LD学会、特別支援教育士資格認定協会 S.E.N.S の会富山支部会、一般  
社団法人日本作業療法士協会、一般社団法人富山県作業療法士会、日本感覚  
統合学会

事務局：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 バロール代々木415

TEL/FAX：03-6276-8985 E-MAIL：jimukyoku@jpald.net

URL：http://www.jpald.net/

## 講演1 報告

# 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用

## ～使い方で変わる教材の有効性～

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、まず原因を考えない支援は、子どもにやってもやっても出来ない経験をさせている、その結果子どものモチベーションを下げているという説明から始まった。ここで、特別支援教育には、アセスメントという原因を考えるステップが必要であることを強調した。さらに具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明していった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多いということを強調しながら話を進めた。



学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき、本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的で効果的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。分析の方法についても、事例をだしながら紹介した。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで、講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で、実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次に紹介する発達障害への支援方法を障害特性ごとにまとめて説明した。LD状態への対応は認知への支援、ADHD 傾向への支援は集中や注意のコントロールへの支援、自閉症スペクトラム障害傾向の子どもたちには、その特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを事例を通して理解出来るように紹介した。

1時間半を越える講演であったが、会場いっぱいの参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。感想の中で特徴的なことは、このような要因にそくした具体的な支援の話をお初めて聞いたという方が多かったこと、子どもの様子を思い浮かべながら聞いていただく方が多数おられたことと、子どもの様子や行動を分析することの重要性を認識した、教材もたくさん知ることが出来た、また今後実践してみたいというような積極的な感想を多数いただいた。

## 「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

報告者：嶋谷 和之

(日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター・  
大阪府作業療法士会 発達部門副代表)

### ねらい

普段私たちは、何気なく姿勢を保ち、運動を行い、手を使って物や道具を扱っているが、これらはほとんど意識されることなく自動的に行っていることが多い。そのため、感覚運動機能を背景的な要因とする子どもの困難に気づきにくい、分析しにくいという場合も少なくない。そこで、講演のねらいは以下の4点とした。

- ・ 普段何気なく行っている活動を意識化し子どもの困難と重ね合わせることで、子どもを理解し手立てにつなげるきっかけとする。
- ・ 方法論よりも、理解と支援につながる視点や発想を伝える。
- ・ すぐにできる物や道具の工夫で、子どもの活動がより行いやすくなることを知っていただく。
- ・ 後で行う事例分析のワークにつながるように、感覚運動機能の観点からの子どもの見方を紹介する。

### 内容

①作業療法士の視点について説明を行った。

②感覚運動機能について、以下の2点についてより具体的に説明した。

- ・ 安定した姿勢が保証されて、効率よく手を使い物や道具を操作できることを説明した。
- ・ 感覚情報は食物と同じように、人間が生きていく上で必要な栄養素であると捉えることも可能である。子どもに必要な感覚情報を、日常生活の中に溶け込むように提供していくという視点を説明した。

③物や道具などの周囲の環境を調整する際に、環境を子どもにどう合わせるかを考えていくために必要となる視点を説明した。

④一般的に当たり前と思われる様々な日常生活活動は無意識にしていることが非常に多いが、その日常生活活動に困難がある子どもは意識的にすることになり、さらなる努力や苦勞を強いられる場合がある。良かれと思った援助が二重三重の課題になる可能性があり、細かく子どもの状況を把握する必要性を説明した。

⑤大阪府作業療法士会パンフレット「発達障がいのある児童・生徒への学習および学校生活援助」から、「よくある相談」のいくつかを紹介し、困難の要因と手立ての例を説明した。

紹介した「よくある相談」は、以下のとおりである。

- ・ 姿勢の保持が難しい
- ・ 筆圧が強すぎる、弱すぎる

- ・食べこぼしが多い（箸がうまく使えない）
- ・はさみ、定規、コンパスがうまく使えない
- ・なわとびができない

⑥事例を通して子どもの困難、背景的な要因、手立てを具体的に説明した。

- ・姿勢の保持に困難のある事例。低緊張に加えて、自分の身体の状態を把握しづらいことが背景的な要因。滑り止めシートを座面に敷くと臀部の前ずれは改善するも、左右への崩れに対しては改善が認めにくくハートリーフクッションが必要と考えられた。
- ・椅子を動かすことが多く、座面の縁で座りたがる事例。圧や運動感覚の欲求が高いことが背景的な要因。感覚の欲求を満たすことができるよう座面にクッションを付けると安定して座ることができ、授業をより集中して受けることができた。
- ・鉛筆がうまく持てず書き続けると疲れる事例。手指の巧緻性の未熟さと触覚の分かりにくさのために、三指では細い鉛筆をしっかり持つことができず、代償的に四指で力を入れて持っていることが背景的な要因。三角の鉛筆グリップを付けることで、鉛筆との接点が増え、鉛筆を捉えやすくなった結果、三指で鉛筆を持つことが可能となり疲れずに書くことが可能となった。
- ・指先で箸を操作できずクロス箸になり、何度もつまみ直しをしている事例。手指の巧緻性の未熟さが背景的な要因。子どもに応じた補助具をつけることで、指先で箸を操作してつまむことができるようになった。
- ・片づけが困難な事例について、空間関係と順序立ての苦手さという2つの主たる原因と援助として環境調整を行ったことを説明した。

⑦子どもと活動をつなぐために活動を分析する必要があるが、いくつかの活動を分析し、説明した。

⑧子どもが努力して物や道具の操作を行っている場合、出やすい運動のサインを説明した。このような反応を捉えることで、子どもの努力を認めることができること、過剰な負担をかけることがないような工夫や細かな段階付けにつながっていくことを説明した。

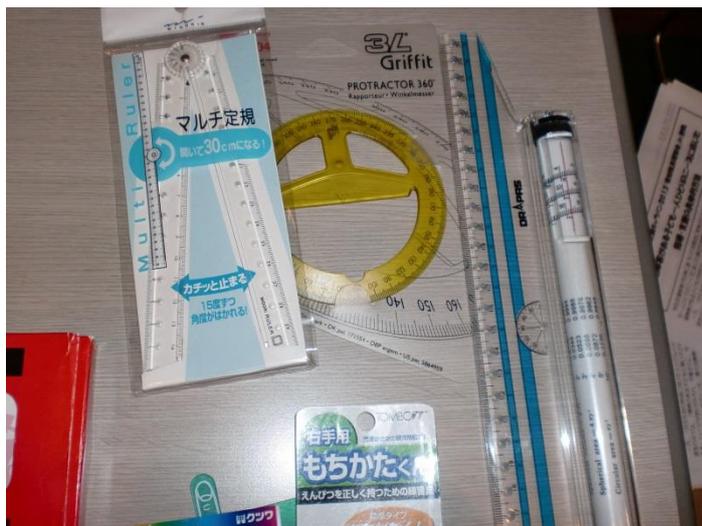
⑨教材教具を展示した。ちょっとした工夫で活動がより行いやすくなることを体験していただいた。

**【展示物】**

- ・ハートリーフクッション
- ・滑り止めシート
- ・滑り止めを貼った定規、分度器
- ・市販の滑り止め加工された定規、分度器
- ・紙の下に滑り止めシートを敷くことで、コンパスが操作しやすくなる工夫例
- ・市販の操作しやすいコンパス
- ・滑り止め加工した三角鉛筆
- ・太い三角鉛筆、色鉛筆
- ・各種の鉛筆グリップ
- ・消えやすい消しゴム
- ・工夫を施した箸
- ・バネ付きのはさみ
- ・工夫したとび縄
- ・大阪府作業療法士会パンフレット「発達障がいのある児童・生徒への学習および学校生活援助」
- ・感覚統合関連の書籍

⑩物や道具の操作、ダンスなど身体をうまく動かすことに困難さのある児童を分析する上で参考となるような視点を配布資料に盛り込み、ワークの事例を検討するための参考資料とした。

参加していただいた方のアンケートを見ると、感覚運動の観点からの支援の必要性に気づかれたり、再認識されたりしたように思う。また、「なぜ」という視点で掘り下げて困難の背景を検討していくことの重要性、感覚運動の特性に応じた環境調整の重要性など、講演内容の重要なポイントがアンケートに書かれてあり、ご理解をいただけたのではないと思う。子どもの理解と支援にあたっては、いろいろな視点で多角的に捉える必要があり、また考え続けることが必要と考える。作業療法の視点が子どもの理解と支援に役立つことができれば幸いである。



展示教具

# ワークショップ 報告

## I ワークショップ プログラム

- 1 ワークショップ 進行説明
- 2 事例となる対象児 ビデオ上映  
教室内で答案用紙を返却される場面  
家庭での様子（食事の様子、宿題に取り組む様子、折り紙、縄跳びを行う様子など）
- 3 グループ毎に子どもの特徴、抱えている問題点、支援方法を討議
- 4 各グループの発表
- 5 山田先生、嶋谷先生より総評
- 6 質疑応答

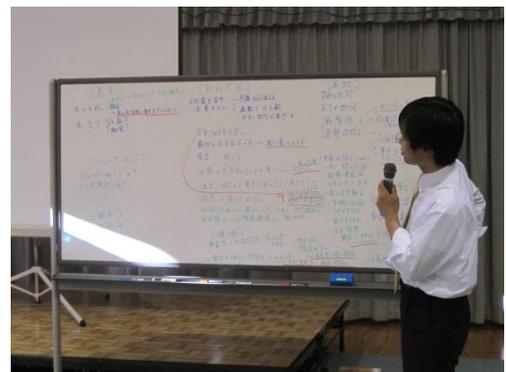
## II 各グループの発表内容

- 1 特徴及び問題点や気になるところ
  - ・ 周りの音に敏感、情報が多いと雑音として感じてしまうのではないか。  
（耳をふさいでいる場面より）
  - ・ 姿勢の保持ができない。
  - ・ 縄跳びや折り紙は、上手である。
  - ・ 好きなことには意欲的に取り組むが、苦手なことは拒否反応をおこす。
  - ・ 注意されやすく、自己肯定感が低いのではないか。
  - ・ 正しい鉛筆の持ち方ができない。（手首をうまく使えていない。）
  - ・ 繊細な性格で、できないことがあると悲観的に思ってしまうタイプ。
- 2 支援方法
  - ・ バランス感覚や体の中心を鍛えるようなトレーニングを行う。
  - ・ 自己肯定感を高めるために、周りの声かけ（ほめる）を多くする。
  - ・ 覚醒を上げるために、みんなに認められるような離席の機会を設ける。
  - ・ ノートを大きめのマスのものにする。
  - ・ 本人合った課題の量・内容にする。
  - ・ ノートを取りやすい座席にする。



## III 先生方の総評

- 1 嶋谷先生より
  - ・ 安定性と運動性のかね合いがうまくいっていない。  
（静的な場面では、姿勢が崩れやすい。  
手の安定性が不足している。）
  - ・ 情報が入らないと、覚醒が下がってしまう傾向がある。  
↓  
覚醒が上がるようなものを入れていくようにする。
  - ・ 本人がもっている能力を上げるチャンスをつくるようにする。



- ・ うまくできた、うまく書けたという気付きを多くつくる。→自己肯定感を上げる。

## 2 山田先生より

- ・ 体幹の問題 →体力づくりをする。  
腕で体を支えている場面があった。
- ・ 視覚認知の問題→見やすいものに工夫する。  
図と字の弁別(ピンポイントで対象物を見付ける力)が弱い。  
どこにどんなことが書いてあるか見付けにくい。
- ・ 繊細、傷つきやすい性格→ほめてあげる。自己肯定感を上げる。  
否定されると意欲が低下する。

三位一体の支援が大切。  
同時進行で支援・トレーニングしていくことが大切。

## IV 質疑応答

Q 書くことが苦手な子どもに対して、タブレットによる指導は、どうか。

A 字を書くことが苦手な子どもに代替手段として活用するのはOKだが、字を書く指導を放棄してしまってはいけない。書くトレーニングをしていくことが大切である。



# サポートツール全国キャラバン 2014 教材教具研修会 IN 富山 発達障害がある子ども一人のニーズに応じた指導・支援の具体的方法

## <アンケート集計>

### 1. 参加者の人数・属性

○参加者数 87名（講演1 86名 講演2 72名 ワークショップ49名）

○参加者内訳 一般参加者 55名 正会員31名 賛助会員1名 合計87名

（1）保護者 39（ゆうの会24 石川パル4 長野よつ葉3 その他8）

（2）教員 12

（3）作業療法士 15

（4）その他 21（保育士 ことばの教室 放課後等デイサービス 児童指導員  
大学生 就労支援 B型福祉作業所支援員 言語聴覚士など）

○アンケート回収 54枚／87人

（1）保護者 22

（2）教員 7（小学校6 中学校1）

（3）作業療法士 8

（4）その他 17

### 2. 感想

#### 講演1

#### 保護者

- ・子どもが小さい時に講演を聞く機会があればよかったなあをつくづく思います。
- ・目の前にいる子どもの特性と適切に把握することの大切さ  
また、特性に合わせながら様々な支援の point を聞くことができて良かったです。
- ・親は支援方法を増すことで自己満足し、子どもの困り事を把握せず、適正な対応や配慮ができず、ただ本人の意欲低下を促進する様な支援を行いがちではないかと感じました。  
その人の特性に沿った支援がいかに重要かを再確認しました。
- ・富山県は、特別支援教育が遅れているのではないかと不安に思い、山田先生のような指導・支援して下さる場所はあるのかと思いました。いろいろな子どもの事例を聞いて、「なるほど」と心から納得し、様々なことを知ることができ、有意義な講演でした。  
特性をとらえることの大切さを痛切に感じました。ありがとうございました。
- ・障害のある子だけではなく、受験生の兄弟児にも活用できるお話でした。  
倫理を教えたり、予想するのが難しい子どもなので、その言葉から3つ連想させるトレーニングを試してみようと思いました。
- ・その子の症状にあった、わかりやすい講義でわかりやすかった。
- ・子どもの何がわからず、苦手としているかを理解し、できる方法をみつけてあげる親の視点が大切かと思いました。
- ・関わり方の例で、目からウロコの内容だった。
- ・いくつかの例の中に思いあたる行動、つまずきがあり、わかりやすくお話を伺いました。  
アセスメントは学校といっしょに詳しくやったつもりですが、1ヶ月～2ヶ月たっても効果が出ないことを考えると、またあらためてアセスメントする必要も感じました。

多感覚活用方法、九九のおぼえ方、漢字のアウトプットの練習、具体的にレクチャーしてもらって、大変参考になりました。ありがとうございました。

見本のプリントいただき、ありがとうございます。活用させていただきます。

- 事例が多く、何回きいてもわかりやすいです。  
その子に合った指導&話術で、やる気を引き出すことの大切さをいつも感じます。
- 2時間ではもの足りなくて、3時間とってでもしっかり聞きたい講演でした。  
右と左について、もう少ししくわしく聞きたかった。うちの子がそうなので。
- 長野から来ました。2回目になりますが、今の我が子の状態をしっかりと把握して何につまずいているのかを見つける事が大事だと思います。
- とても為になりました。ありがとうございました。普通の子ども、または私にもあてはまることがあると感じました。 学習、人間関係についてなるほどと思いました。
- 子どもの特徴を分析、理解する事により、正しい支援の仕方が思い出せる事が、具体的事例で大変勉強になりました。
- とてもわかりやすく、具体例も多くあり、大変勉強になりました。  
20年前にわかっていたら・・・と悔やまれます。有難うございました。
- 自分が不注意優勢型 ADHD だと確信しました。子どもにも自分本位で話していることを教えてあげたいと思います。とてもおもしろく話が聞けて良かったです。
- 正しいアセスメントをつかむこと、重要であると思いました。それに基づく対応がその子の将来にかかっていると思います。
- テンポがよくてとても聞きやすかったです。今小学校2年生の子に「九九の指導」を試してみたいと思います。
- もう一度伺いたいお話でした。具体的な事例で、お話を頂けたので、とても分かりやすかったです。今度は1日単位でお話を伺ってみたいです。
- 子どもの「誤り」や「できないこと」を手がかりに、なぜできないか、どうして誤るのかに気づくことが大切だということが分かりました。子どもの立場にたって・・・これからも支援したいと思いました。

## 教員

- 通級指導教室の指導をしておられる、山田先生のお話が聞けて大変参考になりました。  
問題行動に対しての対処でなく、その元となる問題への対応、支援の大切さがよくわかりました。  
具体的な支援方法がたくさんあったので、アセスメントをしっかり支援していきたいと思いました。
- 大変勉強になった。子どものやっていることに偶然はない。必ず理由があるというお話は肝に銘じたいと思った。
- 明日からすぐ使いたいと思うような手立てがたくさんありました。つい試してしまいそうですが、アセスメントを経て、見極めて取り組めたらと思います。アセスメントの方法が気になりました。
- 実際の事例をたくさん紹介いただいたので、さっそく試してみたい。  
以前に紹介いただいたもののやり方が違っていたものもあり、「あ〜なるほど」と納得しながら話を聞かせていただけた。先生のお話は大変具体的なので本当にわかりやすいです。
- とても参考になる事例がたくさんありました。「お話サイコロ」「漢字イラストカード」など実際に使って役立った教材がありました。しかしなんといってもアセスメント（見立て）が大事ですね。子どもたちのがんばり（努力）が無駄にならないような支援を心がけたいと思います。
- 子どもが「やればできる！」と思えるようにアセスメントにもとづいた支援を心がけなければならないなと思いました。事例にもとづいて様々な具体的な支援を教えてくださいありがとうございました。

## 作業療法士

- ・アセスメントの重要性、必要性をすごく感じました。
- ・アセスメントの重要性を再認識することができました。また、事例が沢山あり具体的にイメージしやすかったです。事例に対してどのようなアセスメントをして特性を考えたかが、もっと深く知れたらありがたいと思います。
- ・とてもわかりやすく、楽しくきかさせていただきました。  
子どもの特性をきちんと理解してあげることが大切なのだな・・・と実感しました。
- ・自分の担当する子どもたちへの現在の対応はどうか、もっとアセスメントが必要であると、自分を見つめ直すきっかけとなりました。ありがとうございました。
- ・事例を通しての子どもの行動をどうとらえるか、具体的に提示されとてもわかりやすかった。時間的などところで、急いで話された部分もじっくりきけるとよかったなあと思いました。
- ・具体的な事例をたくさん紹介してくださったので、イメージが湧きやすかったです。  
行動から原因を究明し、アプローチしていくことの大切さを再確認させていただきました。
- ・たくさんの事例をもっておられるので、先生にとっては時間が足りなかったでしょうね。また、次の機会もほしいです。
- ・大変よかったです。面白く最後までためになる話でした。ありがとうございました。

## その他

- ・子どもの状態や特徴を明らかにし、その子に合ったサポートをしていくことが大切だと、あらためて思いました。どんな事があうのかわからず、試してみることが子どもに負担を与えているというお話に考えさせられました。(指導員)
- ・原因を考えずに取り組もうとするから、今までうまくいっていなかったような気がします。いろいろ取り入れてみようと思いました。(児童指導員)
- ・具体的な支援の方法を分かりやすくお話下さり大変勉強になりました。  
1番心に残った言葉は、指導をためしているということは、子どもにとって出来ないという経験が積み重なってしまうということで、しっかりとアセスメントを頑張りたいと思いました。(ことばの教室)
- ・子どもの特性に沿ったサポートの仕方の仕方がとてもわかりやすかった。  
実践に役立ちそうである。もっとゆっくりいろいろな事例をお聞きしたかったです。(保育士)
- ・子ども一人ひとりの特性にあわせた支援がどうあるべきか答えにたどりつけず悩んでいます。検査結果からでは見えない実際の生活場面の重要性、それを総合的に分析し評価する。もっとアセスメントが上手くできるように関係者と取り組んでいきたいと思います。(言語聴覚士)
- ・子どもへの指導で悩んでいたことで、いくつも参考になったことがありました。  
具体的な対応も教えていただけて、とてもありがたかったです。(ことばの教室 (保育士))
- ・児童たちの宿題等を見ていると、学習面での困難な部分が見えてくるので、今回のことを参考に試していきたいと思います。(放課後等デイサービス職員)
- ・大阪弁で楽しく分かりやすかったです。子ども達の苦勞が少し理解できたので気長にサポートしていきたい。(児童保育)
- ・事例を上げて具体的なお話、大変参考になりました。時間が少なく、もっと話を伺いたかったです。  
私の児童にも、事例に近い子がおり今後の対応の参考となります。ありがとうございました。(学童保育指導員)
- ・アセスメントの大切さ。事例を通しての細かい支援の方法。大変わかりやすく学ぶことができました。(障害児通園施設)
- ・気になる子を一人一人アセスメントして、その子にあった支援が必要であることを再認識した。アセスメントは難しいが、繰り返ししていくこと必要だと思った。(保育士)

- ・障害であるなしに関わらず、その子の特性を見極め寄り添っていくことが大切だと感じた。(保育士)
- ・実例とともに説明していただき「そんなやり方もあるのか」と驚いたり、効果の実際の結果を知れたりと学びある時間となりました。(大学生)
- ・子どもの問題行動の根本にある原因は何か、いま一度考えてみようと思いました。  
また、視覚認知が弱い子どもへの支援方法で試してみたいものが、いくつもあったので子どもに「出来た」という体験をさせるために、やってみようと思います。(児童指導員)
- ・わかりやすく親しみの持てる話し方で大変有意義な講演でした。山田先生の講演会があったら、また参加したいと思います。(保育士)
- ・作業に集中できない利用者がいてどうしたら・・・？と他の職員と悩んでいました。今日聞いた事を少しずつ取りくんでみようと思いました。
- ・様々なサポートの事例、とても参考になりました。 特性の理解をしっかりと行っていけるよう、努力していきたいと思います。(児童厚生員)

## 講演 2

### 保護者

- ・いろいろ便利なツールがでてきた事に驚きました。
- ・もう少し事例の具体的な話が聞けたら良かったなあと思いました。
- ・子育てが終わった今、もう少し小さい頃から教材教具を利用できていたらと思っていました。
- ・今まで、行儀が悪くて片付けていたことも、もしかしたら子どもなりの大変さの原因があったのではないかと思いました。今後の子どもの対応に生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・障害児の子を持ち、はじめて自分のできている動作が難しいものだと知りました。  
自分が勝手に学んでいっていることなので、なかなか子どもの困り感に気付いてあげられません。兄弟も同様なので、手袋の体験などは、とても参考になりました。
- ・道具の工夫も重要だと思った。うちの子も、ものさしを使って線をひけず高志リハビリの OT より、ものさしにゴムをつけてもらひひけるようになった。
- ・子どものできない事に少し援助をしてやりやすく、わかりやすく援助していく事で本人のやる気とがんばろうという気持ちを維持していく事が大切だと思いました。
- ・具体的道具を上げてもらって活用したい。
- ・子どもの体幹を鍛えたいなと思いました。詳しい運動機能のお話、初めて聞き目からウロコでした！
- ・作業分析により、本格的な支援方法が見えてくるように思いました。
- ・事例ごとの説明がわかりやすく参考になった。
- ・理論はわかりやすいが、使いたい実践例が少ない様に思いました。 成人の片付け例も聞きたい！
- ・環境調整や工夫が快適な生活を送る上において重要で、子どもだけでなく大人にも大いに参考になりました。
- ・より使いやすい道具を用意して子どもをサポートしていきたいと思います。選ぶ参考になりました。
- ・姿勢の保持など、ちょっとした支援で、やりやすくしてあげられるのなら取り入れてあげたいと思いました。
- ・教具の工夫で、子どもがより学習しやすくなることがわかりました。学習に集中できるよう、環境を整えることの大切さを実感しました。

### 教員

- ・できない行動の背景にあるもの、無意識でしている行動を細かく分けていくことによって、その子のつまずきが見えてくるので、よく観察してみたいと思いました。環境の調整も大切にしていきたい

- いと思いました。感覚運動の視点から、その子の問題点をとらえることに努力していきたいです。
- ・当たり前のように見える行為の分析が勉強になった。
  - ・100円ショップなどでも、活用できるものがたくさんあることを知りました。ありがとうございました。
  - ・今まで初めて聞いた内容が多く、実際に姿勢が悪く困っている子どもに対して足台を作ってみたり、すべり止めのついたものを試してもらったりして、個に応じてもっている困難さに共に向き合っていきたいと思った。まず1番に子どもがやっていることをまねしてやってみたい。
  - ・動作を細分化して考えることのヒントをいただきました。子どもなりの工夫にきちんと気づき、支援していきたいと思います。
  - ・子どもへの支援を考える時に活動を分析するという視点は、大切な視点だなと思いました。

## 作業療法士

- ・明日からの支援に役立てていきたいと思いました。
- ・作業療法士としての視点を再確認させて頂きました。また、新たな視点も学びました。
- ・どこに問題となるところがあるのか……。しっかり分析することが大事なのだなと思いました。
- ・支援する際に大切なことを、分かりやすくお伝えしていただきとても参考となりました。ありがとうございました。
- ・活動の難易度の調整ー物・道具の工夫、環境調整という視点で、支援の方法を考えていくことを、行動の特徴をふまえて遂行していく過程を指示されていて、イメージしやすかったです。
- ・教材を工夫したり提供することで、学習しやすくなるということがわかった。  
小さな工夫が、大きな成果を生み出すことに気づかされました。原因を探り適切なアプローチをしていきたいと思います。
- ・大変よかったです。

## その他

- ・サポートには、視点・発想が大切で固定観念にとらわれず、見ていけたらと思いました。(指導員)
- ・教材を使用することもいいですね(学童指導員)
- ・専門的な視点から問題行動を分析することができて勉強になりました。その人に合った作業を提供することを大切に頑張りたいと思います。(ことばの教室)
- ・特性に応じた、教材教具はどんなものがあるか、とても参考になりました。  
一人一人に応じた教材教具を用いることで、生活しやすくなるのが、よくわかりました。(保育士)
- ・教材教具の工夫としてのアイデア・イメージができました。なぜ、その教具を使うのか、とりあえず使ってみようということになりがちだったため、子ども一人一人にあったものを使っていけるようにアセスメントしていきたいと思います。(言語聴覚士)
- ・とても良いことを学ばせていただきました。実践してみようと思います。(ことばの教室(保育士))
- ・今回聞いたお話をもとに、現在関わっている児童たちにも、それぞれに合った教材を提供し、よりよい支援をしていきたいと思います。(放課後等デイサービス職員)
- ・現場で工夫して取り入れたいと思う(学童保育)
- ・大変参考になりました。学童保育で取り入れるには、少し工夫が必要かと思いますが、相談していきたいと思います。(学童保育指導員)
- ・“当たり前”とはどういうことなのかをしっかりと考え、お子さんと関わっていきたいと思いました。  
(障害児通園施設)
- ・掘り下げて、原因を探ることが大切だと思った。(保育士)
- ・教材教具をどのように工夫し、援助していくかを改めて考えていく(保育士)
- ・その子どもなりの考えがあるということを知っていても実際にはどんな考えをもっているのか全

- く知らなかった。今回のお話で、それを教えていただいととても勉強になりました。(大学生)
- ・視点を下げていって子どもへの支援方法につながるのだと思いました。「できて当たり前」というものではなく、これから子どもから学んでいこうと感じました。(児童指導員)
  - ・見方を掘り下げる事でいろいろな見方ができるとわかりました。(就労継続 B 型福祉作業所支援員)
  - ・「無意識で行っていることが多い」と聞き、はっとさせられました。
- 1つ1つの行動を掘り下げることの大切さを考えさせられました。(児童厚生員)

## ワークショップ

### 保護者

- ・子どもの特徴を分析し集約することで、本人の困り感を適切にとらえることの大切さを学ぶことができました。
- ・いろいろな視点があったものの、その人に必要な事項については、ほぼ同じ様だと思った。
- ・各々の問題点がわかっても、的確な支援をしないと、なかなか成果は出ないというところで、多くの知識を得ることの重要性を感じました。
- ・気付けるけど、対策はよくわからないので、1つだけの支援ではダメだということがわかりました。
- ・いろいろな視点からの意見が多く出され、とても勉強になりましたが、最後に先生が問題点など解説されると、自分たちが気付けなかった大きな問題点を指摘され、どこを問題ととらえるべきかまだまだ学ぶべきことが多々ありました。
- ・講演1、講演2を踏まえた上で聞くと、とても実になった。ワークショップがとても良かった。皆さんがしっかりその子の障害を受けとめられていて正直びっくりした。一見、障害はそんなに大変とは思わなかったの、先生の説明を聞いて障害の度合の深さを知った。
- ・多職種の意見が聞いてよかった。
- ・わが子ではないが(小3男子)と思うほど、そっくりな事例で「うちも3本柱だわ」と気を引きしめました。今、間違ったことはやっていないとわかりましたが、うまくは行っていません。親が折れそうになっているんですが、通級、担任の先生に助けってもらって支援してもらっています。家の力だけでは大変です。
- ・子どもの行動の問題点を知るためには、まず観察することが大事だと改めて気付きました。
- ・分析、対策ともに難しいと思いましたが、頑張ります。
- ・事例から色々な問題点が見えてきました。同じ事例でも、他の人がどのようにとらえたか、話し合うことが有意義でした。解説もわかりやすく、納得しました。

### 教員

- ・具体の事例での問題とその対応の明確化について教えていただき分かりやすかったです。方針をたて、どの場でだれがどの支援を行うのかという個別の指導計画のたて方についても整理して分かりやすくお話していただきました。
- ・具体的でよかった。いろいろな見方があってよかった。
- ・一度「結局はやる気の問題」という結論になりそうだったので、親の会の方に、「どこに困難があるのかを見てあげないと」と言われてハッとしました。おさらいでも理由がハッキリされていて、勉強になりました。
- ・とても役に立った。ビデオと資料から4年生男子の子がどんな点で困難さを感じているのかを考えるのが、とてもよかった。みんなの意見を分析して、この子の課題は何なのかをよく見きわめ支援をしていく必要があることがわかった。ありがとうございました。

## 作業療法士

- ・とてもいい経験ができてよかったです。どこを見て原因を探らなければいけないのか何が原因なのかを考えることができ、それに対する解釈の仕方を分かりやすく説明して頂き分かりやすかったです。
- ・山田先生と嶋谷先生の講演で教えて頂いたことを振り返りながら、考えられたのでとてもよかったです。
- ・広い視点をもって、その子その子をみる必要があるのだな・・・と思いました。いろいろな意見が聞けて勉強になりました。
- ・自分の視点だけでは、分からなかったところが、他の方の意見を聞かせていただくことで、様々な見方ができることを改めて感じました。
- ・大変よかったです。

## その他

- ・他の人の意見を聞き、いろいろ話し合い、その子に合ったサポートを導き出す大切さを感じました。(指導員)
- ・困っている子の対応をどうすればよいのかわかったような気がします。似たような子がいますので・・・(学童指導員)
- ・親の方々とお話ができ、いろいろな視点があることを知りました。先生方の解説が素晴らしかったです。(ことばの教室)
- ・一つの事例について、深く正しく見きわめる目や力がとても必要だと感じました。課題をつかんで、いかに対応していくかがよく理解できたと思います。(保育士)
- ・一定の情報量から、色んな職種の方々とディスカッションさせて頂き、いろんな視点からのアセスメントとなり、とても学ばせてもらいました。地域療育ケース検討会などでもディスカッションしますが、学習というところにポイントをあてた検討会ではないため、今回はとてもおもしろく、とても勉強になりました。(言語聴覚士)
- ・うまく分析できずドキドキ・・・。ビデオの中の子供の気持ちと同じだったかも。先生のお話は、とても勉強になりました。(ことばの教室(保育士))
- ・同じ映像を見ても、それぞれに様々な視点・考えがあり、それらの意見交換をすることや、解決策として話し合うこと、とても良い機会をもつことができたと思います。(放課後等デイサービス職員)
- ・正直難しかったです。(学童保育)
- ・色々な立場の方の見解が伺え、勉強になりました。(学童保育指導員)
- ・OTさんや保護者さんの意見を聞き、様々な視点で話し合うことができよかったです。(障害児通園施設)
- ・いろいろな意見を聞いて勉強になった。(保育士)
- ・専門的用語も出てきて、むずかしかった。勉強不足を痛感(保育士)
- ・小学4年生の男子児童の例でグループで話し合いをしたが、様々な視点から問題点を見ることが出来て、とても勉強になりました。また、どれかだけをトレーニングするのではなく、同時進行で行って児童の力になると感じました。(児童指導員)
- ・大変良かったです。自分の読みとりの無さを実感すると共に山田先生のお話に聞き入りました。今日の研修会に参加して良かったです。(保育士)
- ・同じグループには、先生、保護者の方がおられ、業界用語が飛び交っていてついていけない部分もありましたが、なかなか勉強になりました。(就労継続 B 型福祉作業所支援員)

### 3. 「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望まれることやその他ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

- ・中学生の娘は、支援級で3人で授業を受けています。発達障害の診断はありませんが、山田先生の講演を聞き、娘にあてはまる部分がありました。支援級では、特に指導に工夫はないように思われ、簡単な出来る程度の学習をさせているというような学習方法がとられています。支援級の先生からの、特別支援教育のお話はありません。もし、娘が山田先生のような指導・支援を受けていたら、今より改善されていたのではないかと思いました。支援級の先生の特別支援についての知識を多く持ってもらいたいと思っています。(保護者)
- ・世間での認識度は上がっているのに、理解度は全く上がっていないことが、もどかしいです。また、このようにたくさんの人に向けて発信して行って下さい。(保護者)
- ・療育手帳の取得幅を広げてほしい。進学・就職支援を手厚くしてほしい。(保護者)
- ・小学校に特別支援教育に優れた先生がいらっしゃって力になってもらっています。が、先生一人に対し、通級の子が40人～50人おり「なかなかひとりひとりに対応できない、サポートの先生がほしい」とおっしゃります。県、市や教育委員会の方に理解いただき、増員をお願いしていますが、聞いてもらえないので、もっとサポートの先生をお願いできないか日々強く思っています。(保護者)
- ・どうしてもできないのか、どうしたらできるようになるかを考えて頂ける教育であってほしいです。あと先生(学校)に余裕がなく(受け持ちの生徒が多すぎて)考えたくてもできないよう現状もあるので、(支援級の定員の見直しや)現状に合わせた臨機応変な担任数の配置ができるようにしてほしいです。(保護者)
- ・「通級による指導」の場の充実が大切だと思います。整備も中身の充実も今後、多く課題があります。特別支援教育の推進にむけて大きなポイントだと思っています。(小学校教員)
- ・学校の管理職が特別支援教育について正しい知識や考え方をもっていただけたら、学校の特別支援教育の設備も進むのかなと思います。(小学校教員)
- ・これからもっともっとこういう機会があればと思います。ありがとうございます。(作業療法士)
- ・サポートツール、データベースの情報について教えていただき、今度活用させていただきたいと思った。(作業療法士)
- ・当学童にも「気になる子」が数名おります。富山県で行っている「ハートフル事業」をもっと規模を広げてほしいです。(学童保育指導員)

